

# 古川工業高新聞

宮城大会特集号  
2018年8月21日  
古川工業高等学校  
新聞委員会

## 主戦小松君486球の力

### 甲子園の夢 後輩に託す



ノーシードから決勝戦まで勝ち上がり、粘投した小松君

第100回全国高校野球選手権記念宮城大会で、古川工業野球部は破竹の勢いで決勝戦まで勝ち上がった。

生徒会は、応援委員会・吹奏楽部・校内生徒有志等で応援態勢を整えた。同窓会も応援バス（準決勝戦6台、決勝戦10台）の支援を行い、渾身の力を振り絞って闘う選手らの背中を押した。

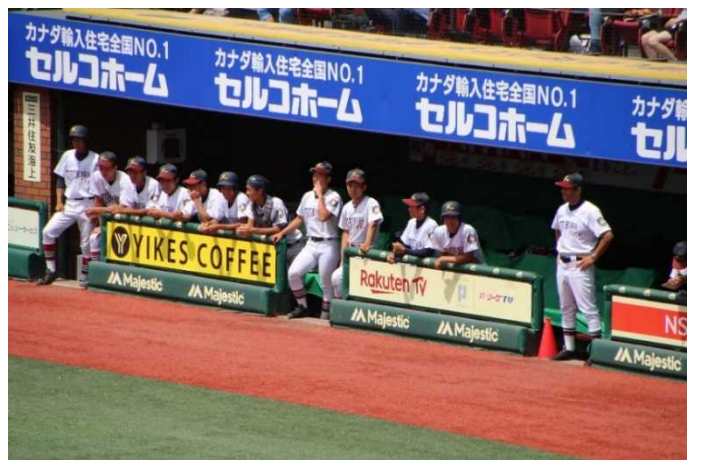
#### ◇ 観戦短信 ◇

2回戦宮城広瀬に10-3、七回ワールド勝ち。3回戦塩釜にも7-0で七回ワールド勝ち。4回戦、第1シード東北と対戦。二回に斉藤君のレフト前タイムリーヒットで先制し、六回は4番佐々木大成君のスライズで貴重な追加点を挙げ2-0で辛勝。主戦小松君は緩急がさえ、要所を締めて8安打完封。

準々決勝は東北生活文化大学高。4戦連続で先制した古川工は、16得点で圧勝した。二回石山君のライトを越える三塁打を突破口に、菅原君のタイムリーヒットで2点を先取。三回には四球押し出しや佐々木大成君の走者一掃の三塁打など、打者14人で一挙9点を奪った。

準決勝は第5シード柴田と対戦。0-1の六回、斉藤君、菅原君の連打でノーアウト一、三塁とし、佐藤君のライトを越す2点三塁打で逆転。続く鎌田君の犠牲フライで1点を加えた。小松君は柴田を3安打1失点で完投した。

決勝進出は2015年以来3年ぶり。古川工は2点を追う六回、ヒット



戦況をみつめる間橋監督

と四球で一、二塁とすると2番佐藤の三塁線へのバントが内野安打となりノーアウト満塁となったが、3番鎌田君、四番佐々木大成君が連続三振に倒れ、後続も凡退して無得点に終わった。チャンスであと一本が出ず、最後までホームを踏むことはなかった。これまで全試合先発して防御率1.00と安定感のある小松君は伸びのある速球を軸に五回まで2失点と踏ん張った。八回は5連打を浴びて3点を失ったが、負傷した左足の痛みをこらえ最後まで投げ抜いた。

中盤までは互角の試合展開をみせ、卒業生や保護者が駆けつけたスタンドから「よくがんばった」と選手らを称える声が多く聞かれた。2011年以来7年ぶりの甲子園出場はならなかった。

全校生徒の皆さん熱い応援ありがとう！



大勢のOB・OGも駆けつけたスタンド



最後まであきらめず頑張った古エナイン

2回戦

古川工	0	2	1	0	0	6	1	10
宮城広瀬	0	2	0	1	0	0	0	3

(七回コールド)



宮城広瀬戦・気迫のヘッドスライディング



柴田戦・クラスメイトもスタンドに陣取る

3回戦

古川工	0	0	0	5	0	2	0	7
塩釜	0	0	0	0	0	0	0	0

(七回コールド)



仙台育英戦・応援団と共に勝鬨を挙げる

4回戦

古川工	0	1	0	0	0	1	0	0	2
東北	0	0	0	0	0	0	0	0	0



柴田戦・左腕柴崎投手を打ち下す菅原君

準々決勝

古川工	0	2	9	0	5	16
東北生文大	0	0	0	0	0	0

(五回コールド)

準決勝

古川工	0	0	0	0	3	0	0	0	3
柴田	0	0	0	1	0	0	0	0	1



決勝戦のスコアボード

主将・菅原俊大君(土木情報科3年)  
 「春の地区予選敗退後、バッテリーが成長し、守りのリズムの良さがいい攻撃につながった。4回戦で東北に勝ち、決勝でも成長を続けたかった。来年は後輩たちに仙台育英を倒してもらいたい。」

号外「第100回全国高校野球選手権記念宮城大会特集号」の編集にあたり遊佐先生(建築科長より写真のご協力を頂きました。ありがとうございました。